

角筈地区協議会

平成26年度第10回(第119回)地域交流分科会 概要

平成27年1月7日(水) 10:00~12:00

角筈特別出張所2階会議室

出席：委員12名 新宿区社会福祉協議会(オブザーバー)1名 事務局3名

1 リーダーより

会議に先立ってリーダーより挨拶がありました。

2 委員の皆さんから連絡

田中委員、村中委員より情報提供がありました。

3 各分科会の報告

(1) 生活環境分科会

- ・第14回「つのはず友遊カフェ」

日時：1月21日(水) 13時30分～

場所：西新宿シニア活動館

- ・施設見学会

日時：2月3日(火) 14時～16時

場所：神田川・環状7号線地下調整池

地域交流分科会共催事業です。参加受付中ですので、希望の方は事務局までご連絡ください。

4 議題

レジュメの順番を入れ替えて協議しました。

(1) 新宿中央公園春まつりについて

3月(日にち未定)に開催される新宿中央公園春まつりについて話し合いました。昨年はプラ板(無料)と焼き芋販売(100円/1本)を出店しました。今年度の事業計画段階では、やはりプラ板と焼き芋販売で予算を取っています。

委員から次のような提案がありました。

- ・ 秋を探そうで好評だった、またアンケートでリクエストのあった公園散策の春バージョンをやってはどうか。
- ・ 新たなコンテンツを増やすと人手が足りなくなる。
- ・ 人手については、社協に依頼するなどしてボランティアを募るという方法もある。

プラ板(人員4名)、公園散策(同2名)、焼き芋(同3名)、ポップコーン(同3名)が候補に挙がり、来月の分科会でさらに検討し決定することになりました。

## (2) 情報紙「わいわい地域交流！」について

### ① 34号振り返り

「34号の訂正とお詫び」について事務局より説明がありました。

発行された34号紙を見たしんじゅくクリエイターズ・フェスタを主催する特命プロジェクト推進課から連絡があり、3件の誤りを指摘されました。これについての対応は、ホームページの34号の箇所に訂正文を添えることと次号(35号)が発行された時にこの「34号の訂正とお詫び」を掲載することになります。

また、編集デスク森委員より「地域の美術館やアート関連の施設を紹介しましたが、これまで取り上げたところに加え新しく紹介できた施設もあり、よかったと思います。取材等編集に携わった委員の方ありがとうございました。」という感想がありました。

### ② 今後の編集方針とその方法について

来年度に向けて、情報紙をどのように作っていくか話し合いました。委員から様々な意見が出ました。

- ◆ 4回発行分の予算を取っているので、今年度中にあと1号発行したい。
- ◆ 休刊という形をとって、情報紙について見直す。
- ◆ 1号から長く続いてきたことは自負できるが、ここへきて情報紙の方向性が見えなくなっている。
- ◆ 編集作業はなくなっても、月1回の分科会は開催し情報交換などしたい。
- ◆ 今年度中にあと1号発行し、その号で休刊のお知らせをしたい。
- ◆ 今年度にこだわらず、発行回数が変わっても続けてほしい。
- ◆ 内容(テーマ)は以前のを繰り返してでも、年4回発行した方が良いと思う。
- ◆ 情熱がなくなった。
- ◆ 分科会委員は多いが編集に携わる委員は少なく大変だった。
- ◆ かわら版としての情報紙を続けていきたい。以前の内容の焼き直しでもよいので50号くらいまでは出したい。少ない人数なりにやれる方法で。
- ◆ 年4回発行は難しくなっている。
- ◆ (地域の)親睦を図ることを目的として作ってほしい。
- ◆ 西新宿に限らず新宿全体に注目して取り上げて行ったらよいのでは。
- ◆ 1号からのアーカイブ的なものを作っては。
- ◆ 年4回の発行はスケジュール的にタイトでは。今年度を見る限り、次年度同じ形で続けるのは厳しいのではないか。
- ◆ 改めて分科会の目的や何のためにやるのかを振り返り、そのための情報紙発行の意義を考えてはいかがか。
- ◆ もっと町会や地域と交流をもち、そういった内容にするとよい。
- ◆ 情報紙発行の意義はあるが、そのためのエネルギーや手間、人手が失われてきている中で、原点に立ち返って発行する目的を考えるためにも休む間が必要では。34号まで続いたものを突然止めるのは難しいと思うが、次にどんな形で再開するかを考えながら例えば来年度は1～2号発行して

みる、というような緩やかな取り組みでもよいのでは。目的をしっかりと持って楽しくできるよう工夫する。

- ◆ 角筈地域センターのタウンニュースに地区協のページを挟ませてもらうのも一つのやり方では。形式はどんなものであれ、イベント情報は掲載したい。
- ◆ これから4月1日発行に向けて編集するには、何回かの臨時編集会議が必須となる。
- ◆ 分科会の中から、編集部として別途設ける方がスムーズではないか。
- ◆ 分科会に限らず地区協委員全体に声を掛け、編集部を立ち上げるのもひとつの方法。
- ◆ これまで編集に携わってきた楽しさを次につなげていきたいが、編集方法は関わる人がやりやすいやり方を模索していけばよいのでは。

#### <事務局より>

- ◆ (情報紙発行のために交付されたまちづくり補助金について)今年度発行できなかった分の補助金は返還するが、そのことによって来年度の計画や予算が通らないということはない。
- ◆ イベント情報は事務局が各団体からメールを通して収集している。地区協のページがイベント情報になる場合、委員が情報収集する方法はどのようにするのか検討する必要があるのでは。

#### <まとめ>

今年度の発行は33号(7月1日発行)、34号(11月19日発行)の2回とし、来月の分科会では次年度以降の情報紙について検討します。発行回数や編集方法など、意見をお持ちよりください。

### (3) その他

#### ① 新年会について

1月7日に予定していた新年会はリーダーの判断により中止になりました。委員の意見から協議した結果、日にちを改めて開催します。また、会費が4千円では高いという意見から2千円くらいで行います。分科会委員の方には別紙開催通知にてお知らせします。

## 5 次回会議日程

日時 : 2月4日(水) 10時 ~ 12時  
会場 : 角筈特別出張所2階会議室